

<対策のポイント>

森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産等を可能にする「スマート林業」を実現するため、ICT等の活用による先進的な取組や、その普及展開を推進します。

<政策目標>

国産材の供給・利用量の増加（30百万m³〔平成29年〕→ 40百万m³〔平成37年〕）

<事業の内容>

1. スマート林業構築実践事業

① スマート林業実践対策

- スマート林業の実現に向け、都道府県や市町村、林業事業体等で構成する地域協議会が行うICT等の先端技術を現場レベルで活用する実践的取組を支援します。

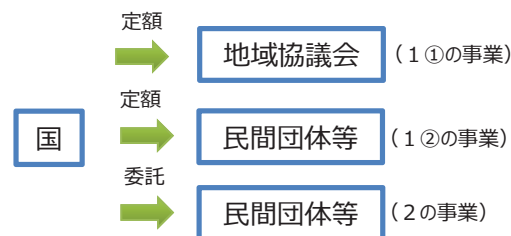
② 森林作業システム高度化対策

- 素材生産や木質バイオマスの収集・運搬、再造林作業を高効率化するICT等を活用した林業機械の開発・改良等を推進する取組を支援します。

2. スマート林業構築普及展開事業

- 先端技術に関する専門的知識の提供、業務の効率化に対する指導・助言を通じた実践的取組のサポート、国有林における先端技術を一体的に活用した木材生産の実証等を行うとともに、これらの取組成果を全国へ普及展開します。あわせて、国有林の森林資源情報等関連データを整備し、オープン化に向けた検討を行います。

<事業の流れ>



※2の一部は国有林による直轄事業として実施

<事業イメージ>

【スマート林業実践対策】

- 航空レーザ計測等のリモートセンシング技術を活用した高精度な森林情報の把握やクラウド技術等による情報の共有化の取組をベースに、川上から川下までの多様な主体間を横串で情報共有・活用する実践的取組を支援します。

施業集約化の効率化・省力化

- ・施業集約化に向けた各作業に共有化された様々な森林情報を利活用

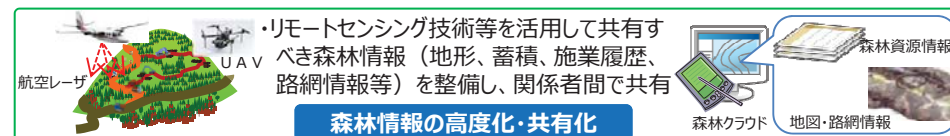
情報収集や現地調査の軽減と効率化

経営の効率性・採算性の向上

- ・ICTを活用して生産現場の進捗状況や丸太のストック等を集計・分析
- ・低コストで効率的な林業経営を実現

需給マッチングの円滑化

- ・川上の供給情報と川下の需給情報をICTを活用してリアルタイムで共有
- ・需要に応じた木材生産が可能



【森林作業システム高度化対策】



▲架線集材機



▲再造林機

ICTの活用による架線集材作業の自動化
再造林作業の機械化による作業の効率化

【スマート林業構築普及展開事業】

- 国有林の生産現場でICTの一体的活用による検証を行います。（経営の効率性・採算性向上／需給マッチングへの活用／森林作業システムの高度化）
- 情報オープン化を目指し、ICT等活用により、国有林の現在・将来の資源量を把握します。

【お問い合わせ先】 林野庁計画課（03-6744-2300）